

💡 アクションプラン策定までの流れ

2025年9月から12月にかけて全4回開催し、各回のテーマに沿った専門家等の話を聞く「情報提供」と、町民同士で話し合う「グループワーク」を行いました。会議では、町民・企業・行政が「自分ごと」として実施すべき取組について、101項目のアイデアをいただきました。このアイデアの中からまず2030年度を目標に重点的に実施すべき取組を選定し、アクションプランとして取りまとめました。

第1回 脱炭素化

日程：2025年9月27日(土) 9:00～12:00
会場：内子自治センター
参加者数：17名

講師 折野 未莉氏(株式会社ウェザーニューズ)
内藤 昌典氏(有限会社内藤鋼業)

第2回 自然

日程：2025年10月25日(土) 9:00～12:00
会場：COWORKING-HUB nanyo sign(南予サイン)
参加者数：18名

講師 河野 裕之氏
(NTTビジネスソリューションズ株式会社)

第3回 暮らし

日程：2025年11月15日(土) 9:00～12:00
会場：内子町森林組合小田支所
参加者数：17名

講師 中村 優理子氏
(松山市環境部環境モデル都市推進課)

第4回 環境教育と取りまとめ

日程：2025年12月13日(土) 9:00～12:30
会場：五十崎風博物館
参加者数：15名

講師 河野 裕之氏
(NTTビジネスソリューションズ株式会社)

参加者/35名の内子町民* 主催/内子町環境政策室
アドバイザー/愛媛大学大学院農学研究科 生物環境学専攻 高橋 真 教授
ファシリテーター・運営事務局/NTTビジネスソリューションズ株式会社
運営協力/NPO法人環境NPOサン・ラブ 多比良 康彦 理事長、愛媛大学社会共創学部 梶本 陽世 さん、スー・モン・チョー さん

※18歳以上の内子町民1,000名を無作為に抽出し、参加希望のあった方に加え、地元企業及び内子高等学校の生徒の皆さまによる構成



内子町環境基本計画アクションプラン(令和8年4月発行) [内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議](#)

発行：内子町 担当：環境政策室(愛媛県喜多郡内子町平岡甲168番地/Tel 0893-44-6159)



内子町 環境基本計画 アクション プラン

内子町は、「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」を目指したまちづくりを進めています。内子町の豊かな自然や美しい景観を次代に受け継いでいくために、どのように暮らしを変えていくか、町は何をやるべきか、地域の主役である町民が集まり、考える場として市民会議を開催し、とりまとめた提言書をもとにアクションプランを作成しました。この中から「自分にできるアクション」を見つけて、みんなのアクションで、いつまでも住み続けたい内子町の未来像を描いていきましょう!

脱炭素化

ゼロカーボンシティうちこを実現しよう

まず2030年までのカーボンハーフ実現を目標に、ライフスタイルやビジネススタイルの省エネ化と再エネの普及に取り組みます。

進捗管理の指標(KPI)

	現状	2030年度
● エコドライブ実施率	49%	70%
● 太陽光パネルの補助金交付件数(累計)	158件	200件
● 脱炭素経営に取り組む企業数	0社	10社
● 公共施設への太陽光パネル設置割合	0%	50%

町民・企業のアクション



1. 窓断熱や断熱改修

家屋の断熱性を高めると快適性が向上し、光熱費の節約に。ヒートショックの予防にも。

2. 省エネ家電・設備に買い換え

3. 再エネ由来電気に切り替え

4. 自転車やバス・列車の利用や、ゆっくりアクセルを心がけるエコドライブ



5. 日常の節電・節水

エコアクションを習慣化するのははじめの一步。「ちりも積もれば」大きな効果が期待できます。

6. 太陽光パネル・蓄電池の設置

7. 積極的に「地産地消」

地元産のを選び、地域の産業や経済を元気に。



行政のアクション



1. エコドライブの普及

温室効果ガスの削減に加え、交通事故を減らすことにもつながります。

2. 公共施設の断熱性能向上

3. 省エネ家電・設備やEV車への買い換えを支援

4. 企業の脱炭素経営を支援

5. 公共施設への計画的な再エネ導入

自然

はぐくもう 自然とともに生きるまち

内子町の豊かな自然や生物多様性について知り、守りながら、それらの資源を活かしたまちづくりに取り組みます。

進捗管理の指標(KPI)

	現状	2030年度
● 清掃活動や花いっぱい運動等の参加割合	22%	40%
● 森林経営活動の促進	334ha/年	350ha/年
● 造林(植栽・下刈)等による森づくり	58ha/年	60ha/年

町民のアクション



1. ハイキング・自然体験などの活動に参加

自然と触れ合い、大切にすることを心がけることができます。健康増進にも。

2. 町内産の生ごみたい肥・竹炭などを活用

3. 内子の森を守り育てる植樹活動

企業のアクション



1. 地産地消の農林産物や工芸品、ジビエなどの販売・活用

自然の恵みを無駄なく活用して、害獣による農作物被害の軽減も期待できます。

2. エコツーリズムの充実

観光客や移住者の増加につながります。

行政のアクション



1. 耕作放棄地・放置人口林の民間活用を支援

内子町の豊富な森林資源の活用を支援して、農林業を元気に。

2. 貴重な生態系を「知る」「守る」活動や情報発信

3. 有害鳥獣対策、6次産業化、ふるさと納税など、生産者を積極支援

4. 古民家や廃校、周辺環境を生かした観光・移住推進

暮らし

ずっと住み続けたいまちを創造しよう

ごみの減量や資源の地域内循環を進め、持続可能な暮らしやすい環境づくりに取り組みます。

進捗管理の指標(KPI)

	現状	2030年度
● ごみの1人1日平均排出量	733g	600g以下
● ごみのリサイクル率	16.8%	25%以上
● 買い物・調理の際の食品ロス低減の取組率	59%	80%
● マイバッグ等のプラごみ削減対策の実施率	73%	90%
● 行動変容アプリの利用者数	-	1,000人

町民のアクション



1. 「ごみを出さない」を意識した行動をとる

ものを大切に使う、分別の徹底、必要な物だけ買うなどの、環境にもお財布にもやさしいアクションです。

2. マイ〇〇を持ち歩く(バッグや箸など)

3. 生ごみはたい肥に

企業のアクション



1. リサイクル素材の採用、リサイクルしやすい製品の開発・製造

社会貢献になるのはもちろん、ビジネススタイルの転換で利益アップの可能性も。

2. 製造時の端材などを活用した商品の開発・販売

3. 食ロス削減を推進

4. ポイ捨て防止のために、店舗で販売した製品のごみは店舗で回収

内子町が誇る美しい景観の維持に。

行政のアクション



1. 余った農産物などの「おすそわけBOX」設置を検討

ご近所さんとの助け合いを町全体で。みんなが暮らしやすい町に。

2. ごみ分別を推進

3. 紙の広報誌の配布見直しを検討

4. リユースの仕組みづくり

5. 行動変容アプリなどを活用した、実践を促す仕組みづくり



環境教育

エコロジータウンを次世代へ引き継ごう

学校・職場・地域などのさまざまな場面で、こどもから大人まで切れ目のない環境学習・活動の実践に取り組みます。

進捗管理の指標(KPI)

	現状	2030年度
● 環境学習・自然体験への参加の割合	4%	20%
● 省エネ行動等の普及啓発活動	8回/年	15回/年
● 情報共有プラットフォームの構築	-	5団体

町民のアクション



1. 地域の魅力や資源を知る、多世代交流の場をつくる・参加する

知ることが行動の第1歩。1人1人の実践が、まち全体の変化につながります。



企業のアクション



1. 従業員の行動変容を促す

企業が行動変容を促すことで、従業員だけでなく、その家族や友達、周りの人たちにも、輪の広がりが期待できます。

行政のアクション



1. 学校と連携した環境テーマのフィールドワーク学習と取り組みの発信

エコに関する情報の共有・発信で取り組みの輪を広げ、住み続けたい、持続可能な内子町に。

2. 楽しく自然環境に触れ合えるプログラムを提供

3. エコ活動を「提供する人」と「活用したい人」を結びつける仕組みづくり